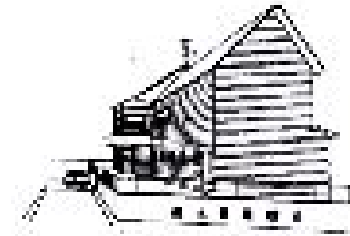


< 今週の聖書から > [先週と同じ個所になります] ます“試み”という言葉が2節にでてきます。主の祈りで“試みにあわせないでください”と祈るとおり、試みには会いたくないものです。一方、試みにあわない人はいない、ということも確かです。試みは悪魔から出てくるものですが、悪魔の働きもまた神の認可のもとに行われるもので、神の試みにも受け取れます(ヨブのように)。“主の祈り”の“試みにあわせないで”の試みは、誘惑なども含めた *peirasmoj* というギリシャ語になっています。今朝の個所における試みは、日本語にしてみれば同じになりますが、*eperwtaw* で、英文の聖書では、*test* とか *ask* に訳されている言葉です、いずれにしても、試みにあうことは罪や不信仰に由来するものではありません。時として不信仰そのものは、“いざない”も意識しなくなる原因にもなるでしょう。いずれにしても、人が人を試みる場合(マルコ8:11など)も、出エジプト17:2~7のように、神の真偽を確かめる時の“つぶやく”場合も、コリント11:28に“だれでもまず自分を吟味し、それからパンを食べ杯を飲むべきである。”とあるように、“自らを吟味する”時にも通じる意味を持っていることもあります。目の前に何かの問題があって、それへの対処に迫られる時、誰でもが善悪を基準に直面するのが試みです。以後は先週の週報と併せて読んで頂きたいのですが、ここで、イエス様がエルサレムにいよいよ赴く最後の時に、パリサイ派の人々は、ただ試みることを目的にイエス様に質問していることに注意しましょう。私たちも、ただ攻撃するために“どんな返事が返ってくるのか”質問してしまうことがないように注意すべきです。問題は申命記24:1にある“人が妻をめぐって、結婚したのちに、その女に恥すべきことのあるのを見て、好まなくなったら、離縁状を書いて彼女の手渡し、家を去らせなければならない”という律法の規定をめぐってです。そのまま律法が正しいと返事をすれば、イエス様が教えてこられた“対等”ということに反しますし、女性の養護をするような見解を述べれば、律法違反ということになる、ここに非難すべきことを見出そうと、律法学者たちは狙ったのでしよう。イエス様は、語られたことの全てが律法に反しないこと、律法が本来の神の意志に基づく、婚姻に関するものであることをもって答えとされました。“訓練”という言葉には注意しなければなりません、小さな訓練に打ち勝てないことを感じたら、神の内に留まる力を得ましょう。

週報

2009年 10月 25日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp